

産婦人科

【診療科概要】

当科では産婦人科全般にわたって診療を行なっている。産婦人科の領域は、1) 不妊・内分泌、生殖医学、2) 周産期医学、3) 婦人科腫瘍学、4) 女性健康医学（性感染症や更年期医療など）に分類できる。いずれの領域にも対応できる体制を整えており、必要に応じて大学病院や専門施設との連携も可能である。地域に産婦人科を標榜する中核病院が少ないこともあり、日常よくみられる疾患から比較的稀な疾患まで、多様な臨床症例が多く集まってくる現況である。

本院は日本産科婦人科学会の専門医制度研修施設であり、指導医や専門医のスタッフも揃っており、特に周産期医療の分野では神奈川県西部地区の基幹病院として、新生児科専門医とともに産科救急システムの一翼を担っている。

【目標と理念】

あらゆる年代の女性の健康問題に関心をもち、マネージメントできる能力を育むことを基本とし、産婦人科の患者の特性をよく理解し、暖かい心をもって診療にあたり、適切な診断と治療を行なう。

当科における2年間の後期研修は、日本産科婦人科学会の専門医を取得するための基礎研修の場として捉えており、専門医制度カリキュラムの多くの部分をカバーできる後期研修プログラムを目標とする。

【到達目標】

1年次

婦人科病棟では、入院患者4-6名の担当医となり、指導医のもとで急性腹症（流産を含む）、婦人科良性腫瘍、骨盤炎症性疾患、終末期医療などの管理・治療方法を習得する。

産科病棟では、積極的に正常分娩に立会い分娩管理を習得する。正常分娩経過について十分に把握し、異常に逸脱した場合に適切な判断、処置ができるようになる。また、切迫流産・早産の担当医として管理、治療方法ができるようになる。帝王切開の予定手術に担当医として加わり、指導医のもとで手術手技を習得する。

外来では、産科外来を中心に研修する。指導医とともに妊婦健診にあたる。異常妊娠や合併症妊娠を認識し、適切な検査・治療方針をたて、入院管理の必要性の判断などもできるようになる。

2年次

婦人科病棟では、入院患者3-4名の担当医となり、1年次で経験した管理・治療について更に向上を目指す。婦人科悪性腫瘍患者の副担当医として、担当医とともに手術に参画し、術後管理、後療法としての放射線療法、化学療法について必要な検査・管理を習得する。

産科病棟では、1年次で経験した管理・治療について更に向上を目指す。妊娠高血圧症候群や糖尿病合併妊娠など異常妊娠入院管理症例の担当医として、指導医のもとに必要な検査・管理・治療を習得する。また、地域より母体搬送されてくる周産期救急症例の担当医として対応し、症例に応じて指導医、産婦人科医師、関連他科医師とともにチーム医療を組織する。

外来では、産科外来とともに、婦人科外来で診療にあたる。通常よく見られる婦人科疾患を中心に外来での検査・治療の実際を習得する。